

情報連絡員総括表（2024年10月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 60 名：回収率 100%）

○2024年10月のDI値（全体）は、前月との比較において、「売上高」「収益状況」「設備操業度」「業界の景況」の4指標が改善、その他5指標が悪化した。「売上高」「収益状況」「業界の景況」の3指標は2か月連続で改善傾向がみられるが、製造業では大幅な改善がみられている一方で、非製造業では悪化傾向がみられるなど業種により差が生まれている。

○「製造業」では、前月との比較において「売上高」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」「業界の景況」の5指標が改善され、その他4指標が悪化した。特に「売上高」は36.6ポイント改善しており、パン業界では秋に販売する定番商品の売れ行きが好調であることや、印刷業界では衆議院選挙関連の印刷が増えたことが起因していると考えられる。

○「非製造業」では、前月との比較において「在庫数量」の1指標が改善され、「雇用人員」が横ばい、その他6指標が悪化した。特に「売上高」は26.7ポイント悪化しマイナス26.7ポイント、「収益状況」は13.3ポイント悪化しマイナス33.3ポイントを記録するなど厳しい状況に置かれている。セメント卸売業では、災害関連工事がピークアウトしたことにより出荷量が1割減少したことや、鮮魚小売業では物価高に伴う消費者の節約志向が高まり、高価格帯の商品を中心に買い控えが生じており、売り上げや収益がともに減少傾向が続いているなど今後の先行きに不安を残している。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2024年10月	-10.0	-6.8	20.0	-13.3	-26.6	-13.3	-6.7	-10.0	-25.0
2024年9月	-15.0	-11.4	23.3	-10.0	-30.0	-11.7	-23.3	-8.3	-26.7
増減	5.0 ↑	4.6 ↓	-3.3 ↓	-3.3 ↓	3.4 ↑	-1.6 ↓	16.6 ↑	-1.7 ↓	1.7 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減				
売上高	2024年10月	6.6	36.6 ポイント	↑	-26.7	-26.7 ポイント	↓	-10.0	5.0 ポイント	↑			
	2024年9月	-30.0			0.0			-15.0					
在庫数量	2024年10月	0.0	10.0 ポイント	↓	-21.4	-7.1 ポイント	↑	-6.8	4.6 ポイント	↓			
	2024年9月	-10.0			-14.3			-11.4					
販売価格	2024年10月	23.3	-3.4 ポイント	↓	16.6	-3.4 ポイント	↓	20.0	-3.3 ポイント	↓			
	2024年9月	26.7			20.0			23.3					
取引条件	2024年10月	-13.3	-3.3 ポイント	↓	-13.3	-3.3 ポイント	↓	-13.3	-3.3 ポイント	↓			
	2024年9月	-10.0			-10.0			-10.0					
収益状況	2024年10月	-20.0	20.0 ポイント	↑	-33.3	-13.3 ポイント	↓	-26.6	3.4 ポイント	↑			
	2024年9月	-40.0			-20.0			-30.0					
資金繰り	2024年10月	-13.4	3.2 ポイント	↑	-13.3	-6.6 ポイント	↓	-13.3	-1.6 ポイント	↓			
	2024年9月	-16.6			-6.7			-11.7					
設備操業度	2024年10月	-6.7	16.6 ポイント	↑					-6.7	16.6 ポイント	↑		
	2024年9月	-23.3			-23.3								
雇用人員	2024年10月	-10.0	-3.3 ポイント	↓	-10.0	0.0 ポイント	-	-10.0	-1.7 ポイント	↓			
	2024年9月	-6.7			-10.0			-8.3					
業界の景況	2024年10月	-16.7	16.6 ポイント	↑	-33.4	-13.4 ポイント	↓	-25.0	1.7 ポイント	↑			
	2024年9月	-33.3			-20.0			-26.7					

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況	
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化
製造業	食料品	1	1	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0
	繊維工業	2	0	1	0	1	0	0	1	2	1	0	1	1	0	0	1	1	2
	木材・木製品	1	1	0	1	0	2	0	2	0	2	0	1	0	2	0	1	0	2
	紙・紙加工品	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
	印刷	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	窯業・土石製品	1	1	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	鉄鋼・金属工業	2	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	1	1	2	1	0	1	1
	一般機器	0	2	1	0	0	0	0	1	0	2	0	3	0	3	0	1	0	2
	電気機器	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	輸送用機器	1	2	0	0	1	0	1	1	1	2	1	1	1	1	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非製造業	卸売業	0	3	0	1	1	0	0	1	0	2	0	1	X					
	小売業	0	4	0	1	2	2	0	3	0	4	0	3						
	商店街	0	4	0	1	1	2	0	1	0	2	0	1						
	サービス業	3	1	X		2	0	0	1	1	2	1	0						
	建設業	1	3			3	1	1	0	1	2	1	1						
	運輸業	3	0	X		1	0	1	0	0	0	0	0					2	0

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	・僅かながら原料事情も改善され、政府のインフラコスト抑制策も効果があり収益は改善している。ただ製品の流通が良くなれば販売価格の値下げに繋がるのではないかと相場の変動にも注視する必要がある。
パン	・10月も暑い日が続きパンの消費量は伸び悩んでいたが、季節に合わせた商品の販売促進を行っている。秋の定番として例年デニッシュパンの売り上げが伸びており、特に中身を芋やマロンあんを入れた商品が売れている。
織物	・受注は本年度安定して増加しているが、供給力が賄うだけの力がなく平準化して対応せざるを得ない。来年度の受注状況を注視しながらの対応に苦慮している。
木材・木製品	・先日、完成すれば高さ56mと日本一高い木造ビルの建設現場が公開された。昨中高層ビルを木造で建てるのがトレンドだが、構造に用いられるのは接着剤を使った集成材。一方、弊組合の製材工場が扱うのは一般住宅向けの無垢材。この分野も集成材のシェアが増えている。なかなか追い風が吹いてはくれない。
印刷	・単月で言えば10月は衆議院選挙関連の印刷もあり、売上計上が集中したため売り上げは良かった。売り上げが昨年と比べて良いと言っても、原材料や人件費は高騰しており、営業利益がどうかは決算が近くなるとわからない。10月より刷版、インキの値上げがあり、更に原材料費が上昇した。用紙値上げも言われており、クライアントへの価格転嫁のタイミングを検討している。肌感では既存のクライアントの印刷需要は低迷していると感じる。業界の景況には大きな不安がある。印刷設備稼働は不変または微増だが、web関連に陰りあり。
骨材・石工品	・先月同様、売上及び収益は前年同月より減少している。
金属製品製造業	・主力の受注先である自動車関連の受注状況が改善されつつある。 ・加工単価の値上転嫁は家電電業では良好に進むも、自動車業界は一向に転嫁に応じず。大変憂慮すべき産業と思う。
電気機械器具	・白物家電の9月の業界統計では販売の改善が見られず国内出荷金額は2ヶ月連続のマイナス。冷蔵庫は7ヶ月連続のマイナス、ルームエアコンは2ヶ月連続のマイナスとなった。・10月の生産実績は、冷蔵庫は販売低調によりマイナス、家庭用エアコンと業務用エアコンは昨年比では若干プラスとなったが先行きが不透明なため組合員は慎重な対応をせざるを得ない状況。
輸送用機械器	・前月に比較して大きな変化はないが、アメリカ大統領選の結果によって日本経済への影響も懸念される。 ・一部カーメーカーの法規制対応遅れによる生産停止が11月期に発生予定。11月期以降の生産が心配である。

非製造業

セメント卸売業	・10月中旬迄は前年実績を確保していたが、下旬以降天候不順や災害関連工事がピークアウトした影響により、出荷量は1割減少となった。
鮮魚小売業	・物価高による消費者の節約傾向の高まりに伴い、高価格帯の商品を買い控えているように感じる。10月より最低賃金も上がり人件費が膨らみ、魚価も高価で推移しているため、売上・収益が共に減少。先行きに不安を残す月となった。
野菜・果実小売業	・きゅうり、トマト、葉菜類が高騰が続いた影響で高値で推移した。
各種商品小売業	・10月は期日前投票や市発行のプレミアム商品券の販売等があり、多くの市民が来館された。
宿泊業	・組合員旅館の宿泊人員は、前年比96.6%と悪化した。国内ツアーとインバウンドツアーが、秋に入り増えてきた。土日の宿泊は稼働率が高いが、平日の集客は苦戦している。 ・中国国慶節の大型連休もあり、全体的にインバウンドが好調であった。人手不足への対応として、各種省力化の取り組みを検討・実施する事業所が増えてきた。
総合工事業	・10月に入っても材料費・職人単価が上昇している。職人不足も続いており、特に不足しているのが建築大工・左官職人である。元請業者にとっては厳しい状況が続いている。 ・今月は順調に推移しているが、来年から春先にかけて仕事量が減っているように思われる。価格も仕事量が減ればかなり落ち込む兆しが見える。本来ならばコストが上がるため、価格をあげていかなければならない。業界全体で、我慢しなければいけない時期だと感じる。
職別工事業	・価格高騰による契約の見直し、工事予算の見直し、計画そのものの見直しなど、実質的な施工に入るタイミングが遅れている状況が見られる。価格については一部下げている情報も耳にするが、相対的には現状維持が大勢を占めている。今後は職人たちの更なる賃上げを見据え、価格の上昇を目指す。
道路貨物運送業	・9月の貨物運送業界は、いくつかの重要な動向が見られた。特に、建設関連の需要増加やインフラ整備の進展が物流量の増加に寄与した。また、静岡県倉庫協会のデータによると、倉庫の使用状況や入庫高も前年同期と比較して増加傾向にある。更に県内の主要港である清水港では、輸出入量が安定しており、特にコンテナ貨物の取扱が増加している。
道路旅客運送業	・売上高がコロナ前の8割程度までは回復したが、ここに来て頭打ちの傾向が見られるため、せめてコロナ禍で受けた融資返済の目途が付くまで公的支援をお願いしたい。

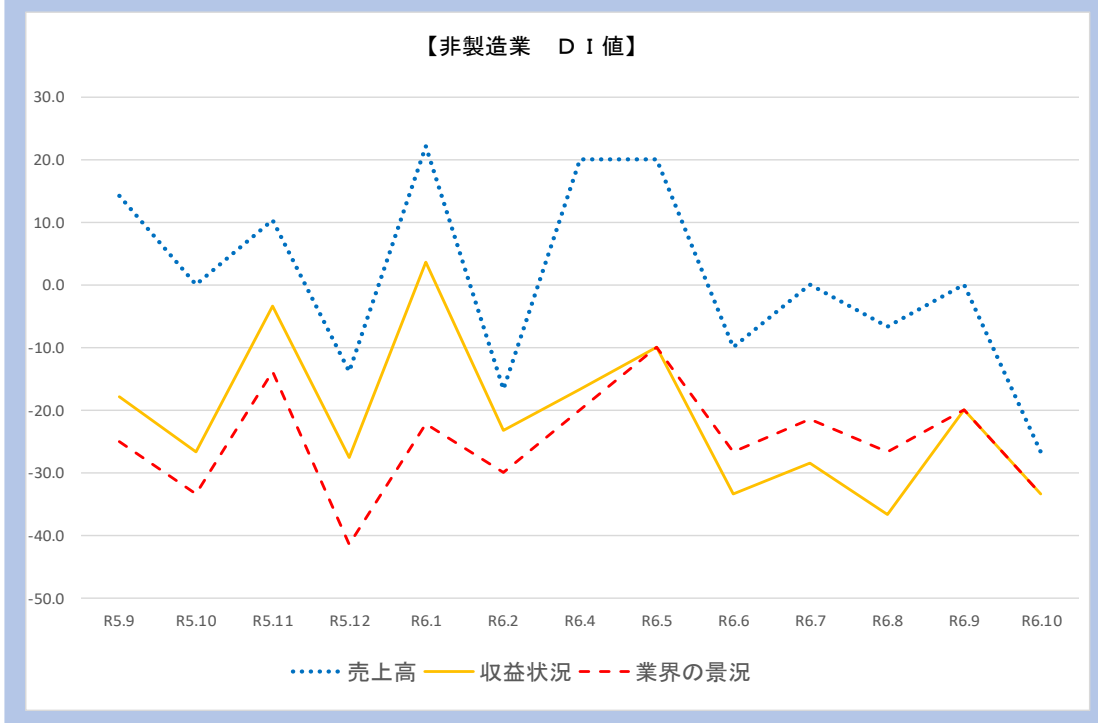
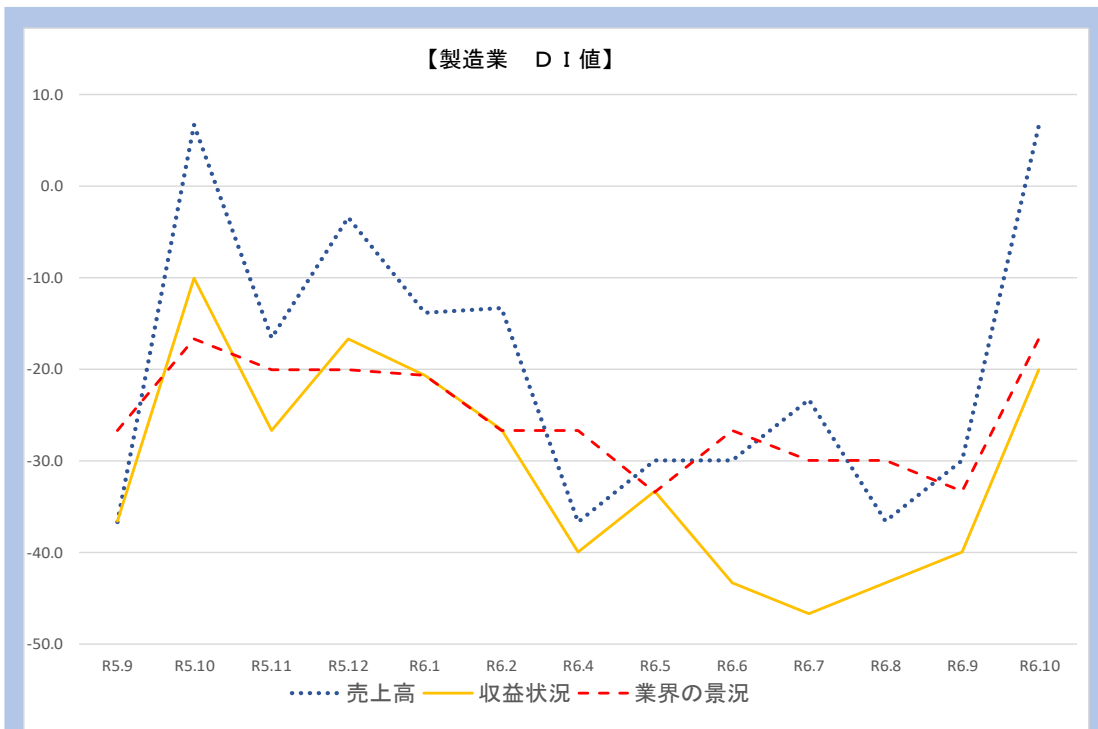
4. 主要三指標における DI 値の推移

■ 2023年10月期～2024年10月期までの推移

全体	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
売上高	3.3	-3.4	-8.5	3.5	-15.0	-8.4	1.7	-5.0	-20.0	-12.1	-21.7	-15.0	-10.0
収益状況	-18.3	-15.3	-22.1	-9.0	-25.0	-28.3	-18.3	-21.6	-38.3	-38.0	-40.0	-30.0	-26.6
業界の景況	-25.0	-16.9	-30.5	-21.4	-28.3	-23.3	-28.4	-21.7	-26.6	-25.8	-28.3	-26.7	-25.0

製造業	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
売上高	-36.7	6.7	-16.6	-3.4	-13.8	-13.3	-36.7	-30.0	-30.0	-23.3	-36.6	-30.0	6.6
収益状況	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7	-20.7	-26.6	-40.0	-33.3	-43.3	-46.7	-43.3	-40.0	-20.0
業界の景況	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0	-20.7	-26.7	-26.7	-33.4	-26.7	-30.0	-30.0	-33.3	-16.7

非製造業	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
売上高	14.3	0.0	10.4	-13.8	22.2	-16.6	20.0	20.0	-10.0	0.0	-6.7	0.0	-26.7
収益状況	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6	3.7	-23.3	-16.6	-10.0	-33.4	-28.5	-36.7	-20.0	-33.3
業界の景況	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4	-22.2	-30.0	-20.0	-10.0	-26.7	-21.5	-26.6	-20.0	-33.4



■2023年10月期～2024年10月期までの推移

売上高	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
製造業	-36.7	6.7	-16.6	-3.4	-13.8	-13.3	-36.7	-30.0	-30.0	-23.3	-36.6	-30.0	6.6
非製造業	14.3	0.0	10.4	-13.8	22.2	-16.6	20.0	20.0	-10.0	0.0	-6.7	0.0	-26.7

収益状況	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
製造業	-36.6	-10.0	-26.7	-16.7	-20.7	-26.6	-40.0	-33.3	-43.3	-46.7	-43.3	-40.0	-20.0
非製造業	-17.9	-26.7	-3.4	-27.6	3.7	-23.3	-16.6	-10.0	-33.4	-28.5	-36.7	-20.0	-33.3

業界の景況	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10
製造業	-26.7	-16.7	-20.0	-20.0	-20.7	-26.7	-26.7	-33.4	-26.7	-30.0	-30.0	-33.3	-16.7
非製造業	-25.0	-33.4	-13.8	-41.4	-22.2	-30.0	-20.0	-10.0	-26.7	-21.5	-26.6	-20.0	-33.4

